



蒙を啓く

学校だより2月号(2) 2025.2.28

福井市啓蒙小学校

福井市開発1-1008 TEL:54-2819 FAX:54-9769 E-mail: keimo-e@fukui-city.ed.jp

学校だよりは、啓蒙小学校ホームページでもご覧いただけます。<http://www.fukui-city.ed.jp/keimou-e/>

令和6年度も、残り1ヶ月ほどとなりました。子供たちは、年度末のまとめに向けて頑張っ
て学習等を進めています。

卒業式まで、あと10日を切りました。6年生から下級生に向けての感謝の気持ちを込めたイ
ベントが6年生のクラスから発表され、先日、3組の発表をもって3クラスすべてのイベントが終
わりました。どのクラスの発表も、訪れた子供たちは大喜び。6年生の温かい気持ちがじんじんと伝
わってきました。様子はブログにもアップしていますので、どうぞご覧ください。

○3年生 「食べ物のひみつをさぐろう」発表会

2月7日(金)、「食」について探究してきた3年生が、これまでの学びを発表する会が
行われました。この日は、新保ナスの栽培でお世話になった地域の方、調理する際にお世話
になった福井農林高校の生徒さんも駆けつけてくださり、発表の様子を参観していただきま
した。聞いてくださったみなさんから、「新保ナスをこれからも受け継いでいってもらえる
とうれしいです」「新保ナスを復活させたのが、福井農林高校の先輩だったとは知らなかつ
たです」などの感想をいただき、発表した子供たちも嬉しそうでした。

また、同じ時間に3年生の教室では、安居小学校、内浦小学校とオンラインでつなぎ、総
合的な学習について発表を行っていました。こちらは、4人ほどのグループに分かれ、お互
いの学習内容についての発表を聞くだけでなく、質問し合うなどして交流を深めていました。



〜〜3年生の感想より〜〜

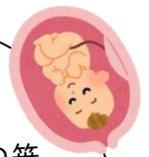
わたしは、あご小と交流して、相手が見やす
いようにスライドを作りました。つたわるように
写真も入れました。

まとめたことを発表して、二年生や「新保ナ
ス作る座」の人や農林高校の人たちに知って
もらえてうれしかったです。

○体操教室(6年生)

2月14日(金)、6年生の「体操教室」が行われました。マット、跳び箱、鉄棒を使っ
て、個人による演技だけでなく、集団による演技も行われました。特に集団での息の合った
動き、きびきびとした掛け声など、「さすが6年生!」と子供たちからも歓声が上がって
いました。6年生のみなさん、素晴らしい演技をありがとう。





○命の授業（5年生）

2月19日（水）、5年生を対象に「命の授業」を行いました。講師は、助産師の笹川先生です。おなかの中の赤ちゃんは、どれくらいの大きさで、どれくらいの重さなのか、実際と同じ大きさ、重さの人形を抱っこさせてもらい体感させていただきました。子供たちは「うわあ、結構重い！」「いやいや、軽いよ」などと話しながら、順番に抱っこしていました。最後に行った妊婦体験では、7kgのエプロンのようなものを身につけ、「これは、重いな」「これで、ずっといるのは無理！」とつぶやいていた子もいました。出産は命がけであることや、生まれてきたことは奇跡のようなことであるとお聞きして、皆感動していました。命のつながりを知ることで、心と体を大切に考えられる子に育ってほしいという、講師の先生からのメッセージをしっかりと受け取っていました。



～～～5年生の感想より～～～

親がとてもがんばって産んでくれて、ぼくはこれからも幸せに生きたいなと思います。そして、大人になって子どもが産まれるとき、自分ができる精いっぱいのことをしたいです。

わたしが今こうして生きているのは、おなかの中で大事に大事にされていたということがわかりました。おなかの中で亡くなってしまう子やきん急手じゅつで亡くなってしまう子がいるとわかり、あらためて命は大切なんだな、当たり前ではないということがわかりました。

3kgの赤ちゃんをずっと抱っこしているとすごく重そうだし、ていねいにあつかわないといけないので、とても大変なんだなと思いました。あらためて、お母さんが命をかけて産んでくれたこの命を大切にしようと思いました。

わたしが産まれるときは、逆子で、お母さんはどんなに大変でつらかったか、今少しわかった気がします。産んでくれてありがとうだし、産もうとがんばってくれたことにもありがとうだと思いました。

○PTA活動ありがとうございます

PTA役員、学級委員の皆様、一年間PTAの活動を主となって担当していただき、ありがとうございました。先日、ある役員の方からお手紙をいただきましたので、一部抜粋して紹介させていただきます。

「・・・私にとって初めてのPTA活動が、広報部でした。正直『免除期間が欲しい』という思いで手を挙げ始めましたが、『自分のスキルアップになる！』と考え方を転換したことで、『やってみたい！やってみよう！』という気持ちに変わり、続けることができました。息子と一緒にデザインや配色を考え、完成した時は息子も「すごい！」と喜んでくれました。これは貴重な体験でした。・・・」

子育て真っ最中である保護者の皆様にとって、毎日が忙しく、時間はとても貴重なものだと想像がつきます。そんな中、PTA活動を快く引き受けてくださったことは頭が下がる思いです。保護者の方の「やってみよう！」という姿や思いは、きっとお子様にも伝わっていると思います。

実は私たち教職員も、啓蒙子を「やってみたい！」「やってみよう！」と自ら挑戦しようとする子供たちに育てたいねと話しているところでした。その折にこのお手紙をいただき、本当にうれしく思いました。

これからも、保護者の皆様とともに力を合わせて、よりよい啓蒙小学校を目指していきたいと思ひます。





↑ドリーム通信
(中学校における
部活動の地域移行
について)



↑啓蒙小
ブログ